

よしこさKOCHIへ

近年、訪日外国人客数は右肩上がりが増加しており、平成27年は対前年比147%の1974万人となっています。

また、目的地も大都市や有名観光地だけでなく、地方都市が選択されるようになっており、各自治体では、外国人観光客の受け入れに向けたさまざまな施策を展開しています。

本市においても、高知新港への外国客船の寄港が急増しており、港を管理している高知県と連携したさまざまな取り組みを進めるとともに、街なかに立ち寄る外国人観光客へのおもてなしの充実を図っています。

問 観光スポットにおける外国人向けの観光案内所について聞く。

答 現在、本市の観光案内所は桂浜公園のほか、高知駅前のとさてらすや高知城にあり、多言語の観光パンフレットなどを取り揃えている。

平成28年度から、外国客船で来る観光客の受け入れ対策として、高知新港やはりまや橋観光バスターミナルなどに臨時観光案内所を開設し、多言語パンフレットの配布や、英語や中国語等が話せるボランティアスタッフによる観光案内などを実施している。

また、よさこい情報交流館では、外国語版も含めた各種観光パンフレットを配置するとともに、必要に応じて常駐スタッフが対応している。

問 通訳の対応について聞く。
答 乗客数が4000名を超

えるような外国客船の寄港時には、港に最大8名の通訳スタッフを配置し対応にあたっている。

また、街なかでは、はりまや橋観光バスターミナル、商店街アーケード内、ひろめ市場、高知城の各所において通訳スタッフが対応にあたっている。

なお、街なかで自主的に取り組まれている学生などによる通訳ボランティアなどについては、外国人観光客の利便性向上だけでなく、学生の英語教育の推進やコミュニケーション能力の向上などの相乗効果が期待できるため、今後の拡充施策を県とともに検討していく。

問 外国人観光客とスムーズなコミュニケーションを図るための取り組みについて聞く。

答 民間の取り組みとしては、有志により設立された「高知おせっかい協会」の方々が、毎月1回、京町の高知市学生生活

動交流館で、商店街や観光関連事業者の方を対象に、英語と中国語の会話教室を開設している。

本市では、観光施設や旅館・ホテル、商店街等の方々を対象に翻訳アプリをインストールしたタブレット端末の貸し出しを行っており、外国人向けの市内マップにも簡単な会話を掲載するなどの取り組みをしている。

問 観光案内のサインなどの多言語化について聞く。

答 本市では、これまでに市内14カ所の歴史の道案内看板や中心街の誘導表示、市内マップ、龍馬の生まれたまち記念館およ

び高知よさこい情報交流館において、サインの多言語化などに取り組んできた。

しかし、本県を訪れた外国人観光客へのアンケートでは、外国語表示などに関する案内機能の充実が望まれている。

外国人観光客に本市での滞在を快適で安心・安全に楽しんでもいただくため、今後も宿泊施設や商店街など民間の関係者と連携して整備に取り組んでいく。

問 高知新港の受入体制の進め方について聞く。

答 ハード対策として、平成26年度に供用を開始した高知新

休憩室



の中も少しづつ似てきているのかもしれない。

150年が経過し、明治から続くものでも、限界がいろいろな分野で感じられます。われわれ高知市議会も幕末の志士たちのように新たな発想で、新しいことにどんどん挑

戦していく姿勢が求められているのかもしれない。

人工知能などの開発によって自動運転が現実化しようとする時代になりました。恐れることなくまだ見ぬ未来を切り開いていきたいものです。

控え室から西側を見れば市役所新庁舎の建設工事が始まっています。平成31年に完成予定の新庁舎がこの先50年以上高知市を見つめ続けていきます。素晴らしい未来を創造していきたいものです。

これまでの歴史とこれから未来を感じることで、控え室にご興味がありましたら、是非お気軽にお立ち寄りください。

(議会広報委員 浜口卓也)